

# 九州・アジア/中国ビジネス研究会

## 第69回研究会開催案内

**日時：** 平成24年10月26日(金) 18:30 — 20:30

**場所：** エルガーラ・オフィス棟 6階601-2号室 久留米大学福岡サテライト教室

福岡・中央区天神1-4-2 大丸エルガーラ東館 TEL：092-737-3111

(エルガーラ・オフィス棟は天神・大丸エルガーラ東館と国道沿いで隣接するビルです)

**講師：** (有)JNC (成都信天翁科貿有限公司の日本事務所) 楊睿之氏

**略歴：** 来日16年目の中国華僑。九州大学で人類学・宗教学専攻後2010年より中国内陸四川省にて家族とともに有機農業事業立ちあげに従事。翌年1年間は八女、柳川、香川、長野と日本の農家を渡り歩き武者修行を敢行、日本農業の現場と体当たりの人脈作りに励む。日本人農業技術者を顧問に招き自社生産、他社への技術コンサル、ブランディング、販売を包括した事業展開を行う。自社農場面積16ヘクタール、品目：いちご、フルーツトマト。技術コンサル先品目：いちご、レモン、キウイフルーツなど。2012年3月にJAS認証取得。

**テーマ：「中国内陸の日本式農業 ～九州の農業ビジネスに活路はあるか?～」**

自動車・半導体・家電で世界第二位の経済体の座にのし上がり、「技術大国」の美称を戴く日本には、工業のみならず農業においてもその技術水準は世界トップレベルを誇る。知識集約のもと生み出された液晶テレビやデジタルカメラを「ものづくり」とするなら、コシヒカリやあまおうも同じく職人の手腕とアイデアの結晶と言えはしまいか。隣国の中国の工業が今の勢いで発展すれば、農業に従事してきた人口がどんどん工業に移り、一度、工業に転業した人たちが再び農業に戻ることはないため、人口増加の要因も加わり中国ではやがて食糧不足に見舞われる。更に食品安全への信用基盤も形成されておらず、生活水準の上昇も品質への強烈なニーズを掻き立てられるところである。現人口の約半分の7億人分の食糧を世界中から買い漁りを迫られる時代の到来、そして安全安心な食を渴望する13億人の胃袋。こうした潮流に日本の農業現場からいかなる提案と解決策を提示しうるか。

九州の農家や法人とパートナーを組み、近年注目度が高まる中国内陸部にて有機農産物生産と技術コンサル事業を展開する中で見えた国際フィールドにおける九州の農産品、農業技術の収益化可能性と課題を現場レベルから情報を共有し、今後の事業展開の一助とされたい。

**会費：** 参加ご希望の方は以下に申込み、登録の上、当日会場入り口にて参加費1000円をお支払いください。

申込み先：(株)アジアソリューション・中山芳美 宛

電話：092-741-9338 E-mail：yoshimi@asol.ne.jp

九州・アジア/中国ビジネス研究会

主催：一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会

共催：近畿大学産業理工学部・アジアビジネス研究会